

第2回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

日 時	2024 年 1 月 22 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分
場 所	町田市庁舎 5 階 5-4 会議室
出席者	【委 員】 （敬称略） 山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授） 【委員長】 長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授） 【副委員長】 藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授） 宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団） 高野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会） 高橋 倫正（町田市郷土芸能協会） 亀田 文生（一般社団法人町田市観光コンベンション協会） 福田 秀樹（成瀬台中学校校長） 百田 明弘（相原小学校校長） （以上 9 名） 欠席：佐藤 正志（町田商工会議所） 【事務局】 文化振興課 老沼課長、上林、牧野、西山 株式会社文化科学研究所（コンサル） 【傍聴人】 2 人
議事内容	1 開会あいさつ 2 前回の振り返り 3 調査結果報告 (1)文化芸術に関するアンケート調査 (2)子どもセンターでのききとり調査 4 計画の骨子案 5 その他 次回以降の日程決め
配布資料	00_【次第】第2回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会.pdf 01_資料1_第1回懇談会議事概要 0731【確定版】.pdf 02-1_資料2-1_文化・芸術に関する市民意識調査報告書（案）.pdf 02-2_資料2-2_文化芸術まちづくり計画_子どもセンターアンケート調査結果チラシ.pdf 03_資料3_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案.pdf 99_参考資料1_計画体系図.pdf

1 開会あいさつ

○事務局（老沼課長）

次第に沿って進行いたします。本日は町田商工会議所の佐藤正志委員がご欠席です。

本日の会議は公開の会議であり、傍聴人が2名おります。

（次第の説明）

それでは山口委員長に司会進行を委ねますので、よろしくお願いいたします。

2 前回の振り返り

（資料1_第1回懇談会議事概要 0731【確定版】について）事務局より説明

○山口委員長

今回は皆様にご発言をいただき感謝いたします。前回の概要についてご意見はありますか。では骨子案の議論に先立ち、2つの調査結果について事務局より報告をお願いします。

3 調査結果報告

(1) 文化芸術に関するアンケート調査

(資料 2-1_文化・芸術に関する市民意識調査報告書(案)について) 事務局より説明

(2) 子どもセンターでのききとり調査

(資料 2-2_文化芸術まちづくり計画_子どもセンターアンケート調査結果チラシについて)
事務局より説明

○山口委員長

ただいまの調査結果報告について、ご意見はありますでしょうか。

○宗田委員

文化芸術のアンケート調査結果が最終的にまとまるのはいつですか。また公表の時期はいつですか。

○事務局

正式な報告書の公開は、3月にホームページですが、先行して本会議の資料として公開されます。

○高橋委員

子どもセンターのアンケートで、伝統芸能は「⑧地域における文化芸術」に入るのですね。町田市の子どもの地域の芸能への関心が数値で表されるのはありがたいことです。東京都などの数値と比較するとどうなるのか興味があります。

○事務局

他の自治体で比較可能なデータは残念ながらありませんが、子どもセンターで実際に聞き取りした感覚としては、身近な文化芸術のイメージとして「祭り」と答える子どもが多く見受けられました。一方、珍しい回答として「組踊り」もあり、学校での授業の影響が感じられました。

○高橋委員

子どもはお祭りでお店を楽しむことが多いと思いますが、お祭りは郷土芸能を見る機会にもなっています。「自分が見るなら、するならどれ？」という質問で「地域における文化芸術」という回答が3%あったことは、我々継承団体にとってありがたいことです。この数値が大きくなれば一番良いと思います。

文化芸術のアンケート調査の結果を見ると、町田市の文化として景観を挙げる人が多いようです。景観を維持するには景観条例があれば良いと思いますが、町田市では制定されているのでしょうか。

問11で、過去1年間に文化芸術を鑑賞しなかった理由として、「鑑賞したいと思う、興味を引く内容の催しがない」が21.3%を占めていますが、この方たちはどんなものであれば興味を引かれるのか、回答されていますか。市民の興味関心がわかれば計画に取り入れられるのではないのでしょうか。

○事務局

直接この問いへの回答ではありませんが、アンケート最後の自由意見にはさまざまな要望や関心事も書かれています。

○山口委員長

子どもセンターでのインタビューでも自由な意見が聞かれましたか。

○事務局

各設問への回答について、「なぜそうなのか」を深掘りして聞いており、参考になる意見も出ていますので、後日共有いたします。

○山口委員長

追って詳細も共有されるということですね。

○高橋委員

子どもたちは将来の町田市を背負って立つ存在ですので、その意見は大切だと思います。

○宗田委員

文化芸術のアンケート調査の問 9 で、町田市民の鑑賞率は全国よりやや低いと出ています。私たちは文化芸術の場を提供する立場としてどう捉えるべきか、評価の方法がよく分かりません。66.6%は高いのか低いのか、回答者に高齢女性が多いということも影響しているのでしょうか。

○山口委員長

この数値は人口比で調整されていませんが、一般に高齢になるほど活動を絞る傾向があり、活動比率は下がります。そのため、全国平均との差は誤差の範囲と思われる。レジャー白書などを見ても東京は突出して高く出ますので、町田市が低いとは言えず、慎重に判断する必要があります。他にご意見はありますか。

○宗田委員

今回は観光の計画ではありませんが、文化を観光資源と捉える視点から見て、市外の大企業やインバウンド、来街者の、町田市の事業や文化についての興味を調査できないでしょうか。市民ホールや芸能協会などのアンケート調査結果もあれば入れてはいかがでしょうか。

○事務局

今回の調査対象は町田市在住者のみです。ただ、この後ご説明する骨子案の通り、計画には市外の人も含まれています。市外の方々の意見収集は計画策定後になるかもしれませんが、適宜実施して方向修正していきたいと考えています。

○山口委員長

それでは次に、「4 計画の骨子案」について、事務局からの説明をお願いします。

4 計画の骨子案

(資料 3 (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案について) 事務局より説明

○山口委員長

「1 策定の背景と目的～4 文化芸術の範囲」の間でご意見はありますか？

○宗田委員

2024 年度末に計画ができて 2025 年度から動き出すとのことですが、2024 年度には何かあるのですか。

○事務局

実際には既存の事業もありますので、全て 2025 年度スタートではなく、方向性を定めるために先行して取り組む事業もあります。

○山口委員長

「5 町田市の現状～6 町田市の文化芸術をとりまく現状」の間でご意見はありますか？

○高橋委員

13 ページ「(2) 文化芸術活動団体の状況」表の町田市郷土芸能協会の欄で、「2023 年は第 42 回町田市郷土芸能まつりが開催された」とありますが、「2023 年」を「2023 年度」に訂正をお願いします。

○事務局

訂正いたします。

○山口委員長

全体的な印象として、「強み」と「問題点」にそれであることを示す通し番号を付けて表記すると、分かりやすくなると思います。

○高橋委員

子どもセンターの調査結果で子どもたちが「楽しい」「興味がある」と答えているのは、素直に受け取ってよいのでしょうか。若い人たちが文化や郷土芸能に興味を持つのはありがたいですが、親御さんたちが無理やりやらせている面がないか気になります。

○事務局

調査に親世代の考えが入っていることは否定できません。子どもセンターの聞き取りでも子どもたちからは「忙しい」という声が聞かれました。

○山口委員長

調査結果と実態は必ずしもそのまま直結しているとは言えないと思います。

○高橋委員

調査対象が子どもセンターの利用者という偏りを考えると、必ずしも子ども全体の意見を反映したものではない可能性もありますか。

○事務局

普段子どもセンターを利用している人だと人数も限られるため、夏まつりイベントなど、より広い層が集まる日に調査を行いました。それでもセンターの利用者ではあるため、多少の偏りはあります。

○高野委員

子どもへの影響という点では家庭が一番の基本ですが、やはり小学校教育の重要性は非常に大きいものがあります。私は小学校に呼びかけて 5、6 年生に茶道、花道の体験授業を行いました。子どもたちは非常に楽しんで、この経験を将来に活かしたいといった声もありました。

子どもセンターは学童保育とは別に、楽しく遊べる充実したセンターだと思っています。聞き取り調査もここで行われたことは良かったと思います。

今後はコラボや連携が非常に大切になり、例えば郷土芸能とお茶など、いろいろな連携がありうると思います。地道に草の根的に 10 年、20 年と続けていけば必ず成果は上がると考えます。

○藤枝委員

アンケートのまとめや課題抽出をありがとうございます。全体として、文化芸術のアンケート調査の中で、自然が強みとなっている印象を受けました。文化に焦点を当てると自然が抜け落ちる傾向がありますが、実際には文化施設に行く際にも、その前後の体験や背景にある自然が印象を決めています。この自然を町田市として維持し、都心とのアクセスが良い上に豊かな自然が残っているという強みを残して行きたいと思います。

○山口委員長

ありがとうございます。重要な視点です。

○長尾委員

4 ページの表にある「まちづくり」の欄の「地形、道路標識」とは、どんなニュアンスでしょうか。

○事務局

町田は地形としては丘陵地ですので、北部丘陵にある里山のような景観も魅力の一つということで「地形」を入れています。「道路標識」は庁内検討会で出た意見で、標識や看板などにアートの要素を入れる可能性を考えています。

○宗田委員

マンホールの絵のようなものですね。

○長尾委員

和光大学でもマンホールのデザインに学生が参加しています。この骨子案に抜けているトレンドワードとして「デザイン」がありますので、上手に取り入れていけるのではないかと思います。

「地形」については、町田では谷戸の地形を利用して公園や快適な住環境が形成されています。骨子案にも「公園」や「緑地」など、人間が利用する場や、地形の特徴を表す言葉を入れていただくと、より分かりやすくなるのではないのでしょうか。

21 ページ目の問題点にある市民ホールの躯体の老朽化について、ハードとソフトの両方を視野に入れた計画ということですが、現在の見通しはどうなっていますか。初回から議論されていましたが、本計画にとっては追い風になるのでしょうか。

22 ページ目の「(5) デジタル化・PR の状況」について、情報の一元化とそれを元にした発信というお話がありましたが、どの程度まで一元化するのでしょうか。個々で発信しているのが一概に悪いとは言えず、よく考える必要があります。個別の団体や施設の機動性や個性を活かして発信しやすいのが、現代のデジタル技術の特徴です。またユーザー視点に立てば、一元化されたところから欲しい情報まで掘って行くのは意外に大変なものです。

○山口委員長

「デザイン」はぜひ加えましょう。

考古、歴史、民俗資料のデジタルアーカイブ化については、現状の 2000 点は十分とは言えず、始まったばかりだと考えています。

○山口委員長

24 ページからのまとめ方の方針や、28 ページの施策体系まとめについてはいかがでしょうか。

○亀田委員

30 ページに、「文化芸術には（中略）賑わいによって経済的な価値を生み出していく『チカラ』があります」と書かれています。文化観光や賑わいといった要素が「(基本方針3) 育む」に入っていることに違和感があります。文化芸術には「する方」と「見に行く方」の二面性があり、「賑わい」は外部から来た人に出費をしてもらうイメージ、「育む」は文化の担い手を大事に育てていくイメージです。一方「(基本方針1) 鑑賞する」にも経済価値を載せるべきではないのでしょうか。どちらに書くべきか難しいですが、「両方にかかる」と書く方がよいかもしれません。

○山口委員長

ご意見には強く同感です。3 つの方針が重なり合っており、分けるのには無理があると感じます。文化振興は鑑賞だけではなく活動も体験も互いにクロスしているので、一対一の対応で表すのは大変だと思います。

○高橋委員

ハードについて、「文化芸術活動をする場所の整備」とありますが、もう少し具体的に「文化芸能劇場の整備」などの言葉を入れた方がよいのではないのでしょうか。活動には場所が不可欠です。何年か前に文化芸術劇場の話が出ていましたが、今回の計画はそれを踏まえているのですか。

○事務局

全体のバランスから見て、具体的にどういう施設とまでは計画には入れませんが、活動する場の必要性をここでしっかり謳い、計画の成立後に改めて具体的な規模、構成や配置を検討します。

○宗田委員

私もこの書き方が薄い気がします。以前2年ほどかけて議論した内容を踏まえて書いていただきたいです。

もう一つ、伝統芸能の練習のための場として廃校や学校を利用できるように、行政からも提案した方がよいと思います。市民センターの小さい部屋も有料で借りたいという人が大勢います。場所はあるてもルールがあって借りられないことも多いので、ルールを少し緩和すれば、お金をかけずに活動を広げる工夫ができます。

基盤整備について、交通網が充実すると人が出て行ってしまうという問題があります。そうならないように、町田の中で楽しむ工夫が必要です。

町田のアーティストを登録し、アーティストと紹介してほしい人となつなぐアーティストバンクは、町田の中で活動する人たちをつなげる工夫だと思います。これもお金をかけずに文化の底上げをする一つの方法です。

○百田委員

課題に関連して、学校教育の中での文化芸術を「みる」「する」状況について、今年度は市内42校の公立小学校の連合音楽会を、7校ずつに分けて6回行いました。2000人収容のホールがあれば一度に行えます。あるいは地区ごとに300人の会場があれば、移動時間を短くできるメリットがあります。

コロナ禍で劇団四季公演のオンライン配信があり、出かけなくても良いというデジタルの利点を感じました。もちろん本物に触れることは重要ですが、博物館もデジタルアーカイブが充実してきて、行かないことによるメリットもあります。

○福田委員

デジタル化について、町田市ホームページでは、文化・芸術についてどのくらい探しやすいのでしょうか。例えば、総合的な学習の時間の授業で、中学生たちが町田市の文化芸術をアピールするためにプレゼンソフト等を使って作業をする場合に、まとまった、アクセスしやすい窓口があると良いと感じます。本物を生で見る迫力や魅力は大切ですが、そこへの入り口となる動画や画像などのオンラインコンテンツが、「(基本方針2)活動」か、「(基本方針3)育む」のどちらに入るのか分かりませんが、探しやすい整理してあると良いと思います。

○高橋委員

伝統芸能・郷土芸能は備品が高価なため、教育委員会や市民ホールを通して民間の団体などの支援を受けていますが、なかなか維持が難しい状況です。太鼓ひとつの新調にも何十万円もかかり、山車や神輿にはさらに莫大な費用がかかります。全てを補助で賄うのは無理でも、一定程度公的負担をするしくみが必要です。かつては地域社会や富裕な個人が支えていましたが、今後伝統を継承していくには経済的な整備が必要ではないのでしょうか。

○山口委員長

ご意見として承りました。闊達な議論をありがとうございました。

私からは、まず課題について、いくつか「文化」が入っていないものがありましたので、レベルを揃えるために入れたほうが良いと思います。また、一覧表形式のまとめは複雑で分かりにくいいため、より市民に分かりやすい整理を工夫したほうがよいと感じます。ひとつのヒントとしては、マーケティング分野で強みと弱み、内部環境、外部環境を整理する SWOT 分析などもあります。

○宗田委員

計画の最終イメージとしては、施策ごとに目標値があって管理していく形になるのですか。目標値はアウトプットかアウトカムか、両方ですか。

○事務局

骨子の後、2024 年度の素案段階で、少なくとも基本方針ごとに指標を設定して管理する形にします。アウトカムによる評価は難しいですが、理想としてはそうしたいと考えています。

5 その他

次回の日程について

○山口委員長

最後に「5 その他」について、事務局からの説明をお願いします。

○事務局

次回の日程について、事務局より説明

最後に、事務連絡を 3 点お伝えします。

1 点目は日程の再確認です。今回は、3 月 26 日（火）の 10～12 時と、13～15 時の 2 箇所を仮日程とさせていただきます。確定しましたらお知らせしますので、日程のご配慮をよろしくお願いします。

2 点目として、今回の第 3 回懇談会で骨子を決めたいと考えています。今回の資料には、骨子と共に参考データを掲載していますが、今回は参考データは削除し、骨子だけのスリムな資料になります。ご理解をお願いいたします。

3 点目に、本日第 2 回懇談会の議事録は、市ホームページ等で公開する前に委員のみなさまに事前確認いただき、2 月中旬から下旬にメール等にてご連絡する予定です。

それでは終了します。ありがとうございました。

以上